

スキーO 修行中の堀江守弘が高校で一日授業する！生徒は興味を示した、果たして挑戦する気になったか？

< 堀江守弘 >

高校で授業をする

札幌での生活にも慣れてきた昨年12月半ば、ちょっとしたきっかけから高校で授業をすることになりました。興味本位でその話を受けたものの、自分の競技について話しをすることは全くの初めてで、準備を進めるにつれて不安も大きくなっていました。対象は三年生だったので、スポーツの話から少しでも受験につながる力を与えることができたと思って望みました。

舞台は札幌旭丘高校。「スポーツと私の人生」と題して、スキーオリエンテーリングを中心に話をさせていただきました。少人数の授業だったため、生徒さんとの距離も近く私自身楽しく授業を進めることができました。今回の経験をはずみにして、これからはたくさんの方々にスキーオリエンテーリングというスポーツを知っていただき、世界に挑戦しているアスリートがいることをアピールしていきたいと思えます。



堀江先生授業の舞台となった「北海道札幌旭丘高校」。書面玄関上の吹き抜けには、道大会や全国大会制覇の垂れ幕が下がっている。

パークスキーO

札幌の公園は冬の間、歩くスキーのスキー場に様変わりします。中には夏場パークOが行われる大きな公園もあり、その地図をつかってスキーOのトレーニングを行いました。集まったのはいずれも札幌在住でWOC2007の代表でもある三浦さん、白鳥さん、堀江です。

その公園の近くに住む白鳥さんが、圧雪された道、散歩でできた道などを細かく調査し作図まで担当してくれました。おかげで、スプリントのレースに十分匹敵する充実した練習ができました。シーズンも短く、大会の数も少ないスキーOにとって、こういった実践に近いトレーニングはとても貴重です。札幌に住んだかいいがありました。

このパークスキーOの練習を生かし、1月27、28日ルスツリゾートで行われたスキーO北海道選手権では、二日間ともに優勝することができました。

デビュー戦で6位入賞

2月4日、北海道おたき国際スキーマラソンというクロスカントリースキーの大会に参加しました。私にとってクロスカントリースキーの大会参加は始めてでしたので、純クロカンの選手と差がどれくらいあるのかをみるいい機会となりました。

30kmのレースということもあり、序盤はどの選手も押さえ気味の滑りでした。中盤の長い登りに入ってから、徐々に集団がばらけはじめ私も少しずつトップ集団から離されてしまいました。

プロ選手たちとは、明確な力の差を体感しましたが、6位に入れたということは今までやってきたトレーニングの方向性が間違っていない証です。自分自身にとっての自信にもつながりました。今度はこの走力をもって、スキーOの世界でどこまで通用するか楽しみです。

一ヶ月で66時間？

私は北海道に来て、札幌を中心に活動する地域クラブに入りました。そのクラブ、冬季は精力的にクロスカントリースキーの活動を行っているため、クラブを通しているんな方と一緒にトレーニングすることができました。練習会の参加状況を見ると60代前後の方が最も多く、20代、30代の方は非常に少ないようです。仕事の関係もあるでしょうが、若者のスポーツ離れは顕著

だと言えます。特にクロスカントリースキーはアルペンスキーやスノーボードなどと違って新たに始めようとする若者も少ないと思います。

クラブの中にすごい人がいます。なんと一ヶ月に滑った距離が800kmを超えたのだそうです。その人のペースで800kmを時間に換算するとおよそ66時間になります。日本のオリエンティアで月66時間トレーニングしている人はいるでしょうか？それを考えたらとてつもない量だということがわかると思います。決して速い滑りではないのですが、毎日、毎日こつこつと距離を伸ばすその姿には、私もたくさんのエネルギーをもらいました。ちなみにその男性は62歳です。やはりスポーツをやっている人はいつまでも若々しいですね！



安定したフォームの堀江守弘
スプリント(1/28、ルスツ)

“注釈”

(視線、前傾の角度、スキーへの乗り込み、すばやい重心の移動等が複合的に安定したフォームに現れている。表情から途切れない集中心も感じられる)

(注釈は武石)

WOC2007 ロシア

ビザの問題などがまだ解決していませんが、世界選手権まであと二週間となりました。前回の世界選手権ではリレーの1走で六位という好成績を残せ

ました。今回は二年後に控えた日本での世界選手権のステップとして、個人戦で15位を目標に頑張ってきます。応援よろしくをお願いします。

(堀江 守弘)

“注釈”

心配したビザは出国5日前に発行される事になりました。(武石)

食は体力のエネルギー



札幌といえばスープカレー。美味しいお店がいっぱいあります。辛いものを食べて体の内側からポッカポカ。(写真のスープカレーはどこのお店?)

僕の修行レポート

<渡辺 幸>

堀江先生に続け!

スキーOは当然、フットにだって挑戦だ!

ジュニアチャンピオン大会

僕は今年初めてジュニアチャンピオン大会に参加しました。

おじいさんから1月21日にフットのジュニアチャンピオン大会があることを聞いて出てみたいと思いました。

僕は友達の基生君を誘って、いつものように爺爺の車で前の日に米沢を出発しました。

暗くなって道がわからなくなり、スーパーの駐車場で道を尋ねてようやく到着しました。泊まったところは釜北湖レイクビューホテルで回りに家はありませんでした。

風呂は温泉と書いてありましたが、お湯を遠い秩父のほうから運んでいるので「お湯を浴槽から汲み出さないで

ください」と張り紙があり変な温泉だと思いました。

ご飯もおかずを一皿に載せていて、宿泊料の割合にとってもお粗末な食事と思いました。

ライバルは僕自身

僕の参加するクラスはM15Aです。中学1・2年生が参加している。3年生はJMEクラスに出ているのか15歳の人は一人もリストにいません。

M15Aの事前申込者は20名くらいでした。



東野基生と渡辺幸の米沢2中コンビ。着替える前だが、緊張しているようには見えない。

会場に着いて、久しぶりに町井瑞樹君と会いました。瑞樹君は高校生なのでJMAクラスです。

基生君はM15Aのトップスタートなので僕より早くスタートに行きました。

僕はスタートする前はとても緊張していました。

スタートで地図を見たら、アップダウンが激しいことが分かり、こんな急斜面を上れるかが不安になりました。実際、その場所は予想以上に高く、僕は走らずに歩いてしまいましたけれどコースは思ったより簡単で、1箇所で少しミスしましたがその後は何もなくゴールをしました。

僕は今日のオリエンテーリングは順調に回れたが途中歩いてしまったから1位になれるかな・・・と思い会場に戻ってきました。

ご飯を食べたあと速報を見てみると、なんと1位でした!!そのときはとても嬉しかったです。

おじいさんからは、「部活でオリエンテーリングクラブに入って練習している学校もあり、木村友佳君のような強い人が出場している中で1位になったのは、邪心を持たずレースに集中した結果だ」と褒められました。

スタートにはおじいさんと一緒に行きましたが、途中の会話は無くレースの事だけを考えていました。今日のライバルは自分自身だという気持ちを持ち続けたことが結果になり自信になりました。



1位の表彰を受けてVサインの幸

友達の基生君も4位でしたので、二人で頑張れば二人とも入賞できるかもしれないと思いました。

そして、もっと多くの中学生が参加する意欲が出るようにM15Aクラスでは中学生チャンピオンの表彰をお願いします。そしてジュニアチャンピオン大会が夏休みとか春休みに開催されたら、遠くからも中学生や高校生が参加してくれるような気がします。

僕は来年、スキーオリエンテーリングのスイス選手権大会に参加予定なので、時期が重なり出られるかはまだ分からないけど、出られたらがんばりたいです。

真室川スキーO大会

真室川のスキーO大会に参加しました。今回は大人の参加者もいるレッドクラスに出ました。

1日目はミドルだったのでスタートからスピードを出して1ポにきました。ところがモービルトラックの分岐を通りすぎて5分ほどロスしました。

小林岳人さんが1位で僕は2位になりました。タイムを見てミスがなくすれば、明日のロングも希望があるので頑張ろうと思いました。

ロングのとき湿った雪が降ったりしてマップホルダーの上に積もり見えにくかったけれど、地図で分岐を記憶してスキーを頑張ったら1位になりました。

今年の僕の目標は、内山さんに挑戦することでした。とても残念ですが、1月から内山さんが病気でスキーOに参加していません。早く良くなって競争したいです。

そして堀江先生のように世界選手権でよい成績を上げたいです。

(渡辺 幸)